



海外派遣を終えて



異文化と
関わる楽しさ

豊里中3年
菅野 暖さん

サウスレイク市に着いた時はちょうどハロウィーンで、ホストファミリーと一緒にお菓子をもらって歩きました。家の装飾や仮装のレベルが高くて、日本との違いに驚きました。

テキサス州にあるトヨタの工場見学に行った時は、さまざまな種類の車や、製造の過程を見させていただき勉強になりました。最終日には、ホストファミリーと一緒に買い物をしたり、アメリカ名物のハンバーガーを食べたりして過ごしました。今回の研修では、ホームステイが一番不安でしたが、ホストファミリーが優しく接してくれたおかげで、安心して楽しく過ごすことができました。

今回の海外派遣で、異文化を学ぶことの面白さや、他国の人と関わることの楽しさを知ることができました。この経験を生かして、将来のことを考えていきたいです。



国際交流から
学んだこと

佐沼高1年
阿部 蓮斗さん

アメリカでの生活の中で特に難しいと感じたのはコミュニケーションの取り方でした。言葉の違いから、現地の人との意思疎通が大変でしたが、皆さんは自分のつたない英語を理解しようとしてくれて、涙があふれるほどうれしかったです。

高校生のアメリカンフットボールの試合を観戦したり、日本では見たことのない大きな角を持った牛のいる牧場を見学したりと、いろいろな経験をさせていただきました。中でも、自分と年齢の近いホストファミリーや、地元の高校生と一緒に食事をしながら、より親密な関係を築くことができたことで、自分のコミュニケーション能力が向上したと実感しています。

今回のアメリカへの旅は、これまでの人生で一番貴重な体験だったと思います。

■青年海外派遣事業

海外での生活を体験し、交流しながら語学や異文化を学ぶ「登米市青少年海外派遣事業」が、4年ぶりに実施されました。

今回派遣されたのは、市内在住の中高生8人。10月30日から11月6日までの8日間、国際姉妹都市のアメリカテキサス州サウスレイク市で、親善交流を深めました。

■アメリカへ出発

派遣団員は、事前に英会話やサウスレイク市の文化、生活習慣、ルールやマナーなどの研修を受け、登米市を出発し、約9時間かけてアメリカへ上陸。経由地のサンフランシスコでは、有名なツインピークスやゴールデンゲートブリッジなどの名所を巡りました。

■ホームステイを体験

サンフランシスコから、6時間ほど移動してテキサス州へ。サウスレイク市に到着すると、ホストファミリーの温かい歓迎に、長旅の疲れと緊張が吹き飛んだ様子を見せました。

団員たちは、ホームステイをして、アメリカの日常生活を体験。滞在中は、高校を訪問して現地の高校生と交流を深めたほか、ポットラックパーティーでは、登米市の魅力を団員が一人一人英語で発表するなど、充実した時間を過ごしました。

■視野を広げた国際交流

8日間のアメリカでの生活を通して、大きく成長した団員たち。12月17日に市内で開催された国際まつりで、アメリカでの体験を報告しました。



ホストファミリー募集

市では、海外の子どもたちを受け入れていただける「ホストファミリー」を随時募集しています。
【問い合わせ】まちづくり推進部観光シティプロモーション課(ふるさと定住係) ☎ 0220(23)7331

①②ホームステイを通してアメリカの日常生活や食事を体験③歓迎パーティで盛大なもてなしを受ける訪問団④消防署では実際に使用される車や装備を見学⑤ハロウィン期間中、町中はイルミネーションで彩られた⑥サウスレイク市内には牧場が多くある⑦国際まつりで海外派遣事業の成果を報告

